

Y06b 「東京サイエンスネットワークの構築」国立天文台による地域ネットワークの取り組み

内藤誠一郎、縣秀彦、永井智哉(国立天文台)、小菅政治(東京都教育庁)、竹内富士夫(三鷹市)、北原和夫(国際基督教大学)、山口亮三(三鷹ネットワーク大学推進機構)、佐々義子(くらしとバイオプラザ21)、滝川洋二(ガリレオ工房)

国立天文台では、平成21年度よりJST地域の科学舎推進事業<地域ネットワーク支援>を受け、科学を楽しむ技術に親しむ人々の「地域の絆」の中で科学技術リテラシーを育てていくことを目指して、自治体、研究教育機関、NPO法人等との連携により「東京サイエンスネットワーク」構築の取り組みを始めた。

地域で孤立している科学好き市民、科学技術人材を繋げ、今まで関心を持たなかった人をも科学に接する機会に誘導する共通の広場を地域社会に創出することを目的とし、二つの事業を柱としてネットワーク構築を進める。

フェスティバル事業では、場所と人、コンテンツ等地域の科学文化資源が合流し、各種の団体、組織、個人が横断的にコミュニケーションする場所として、「東京国際科学フェスティバル」を開催する。第1回フェスティバルでは、86団体・110イベントが集中、多数の一般市民の参加を実現、人を繋ぐネットワークの起爆剤として訴求力を持つことを確認した。

ソーシャル・カルティベーション事業では、市民活動や地域社会に根ざした科学文化の定着を目標とし、関心層や地域人材の発掘・養成、科学リテラシー共有の各種プログラムを実行している。国立天文台と三鷹市等との間で取り組まれている「星と風のサロン」や「アストロノミー・パブ」等の事業をモデルケースとして、都内に科学文化交流の地域拠点のネットワーク設立を目指す。

本発表では、ネットワークの構築目標とミッション、実行体制について概略と初年度の実施成果を紹介する。